

岸田首相も萩本欽一も

4回目接種直後に感染

なぜワクチンは効かないのか

どんどん効かなくなっていないか？ 国民の大疑問

「周りに迷惑をかけないため」「打っていない人が感染を拡大している」そう言われ続けていたが、接種後に感染する人が後を絶たず、ついに首相もそのひとりに。副反応に耐えながら、4回、5回と続ける意味はどれほどあるのか。

《私の感染について国民の皆さんからいただいた指摘は、真摯に受け止めなければならぬ》

8月22日、岸田文雄首相は新型コロナウイルスに感染したことを発表し、こう語った。

依然として第7波が猛威を振るい続けるいま、たとえ対策が万全であったとしても誰がどこで感染してもおかしくない。しかし多くの国民がクエスチョンマークを抱いたのは、そのタイミングだ。

名古屋大学名誉教授の小島勢二さんが指摘する。

「岸田首相は「自分にも周りにも大事なこと」として8月12日に4回目のワクチンを接種しました。つまり、自分の感染を防ぎ、周囲にもうつさないようにすることが接種の目的でした。

ところがわずか8日後に微熱や咳などの症状が出て、8月21日に陽性が確認された。接種直後の感染に、多くの国民は「ワクチンは効かないのか」と落胆したはずだ」

接種後すぐに感染するケースが相次いでいる。7月下旬に4回目接種をしたタレント

デルタからオミクロンで変わった

	オミクロン株	デルタ株
感染力	デルタ株の約3倍	アルファ株の1.5~2倍
潜伏期間	約3日	3~5日
症状	鼻炎や喉の痛み、発熱が中心。肺炎は起きておまれ。	喉の痛みや発熱に加え、肺炎を引き起こす危険性も。
ワクチンの効果	ウイルスの変異によって予防効果は大きく低下。ただし重症化予防には50%ほどの効果がある。	感染・重症化予防にも大きな効果があり、とデータも示した。

ウイルスが変異したことによりワクチンの効果も大きく変化している。

「重症化の予防に関しては、大きな意味がある。そもそも感染予防と重症化予防では体の中で担当する免疫の仕組みが異なります。初期段階でウイルスを増やさないようにして感染を予防するのが「抗体」というたんぱく質で、ガイドをかくくって侵入したウイルスと闘い、被害を最小限に抑えるのが「細胞性免疫」です。後者の細胞性免疫はウイルスが変異しても効果を発揮できる。この働きは過去のワクチンでも証明されています」（久住さん）

中村さんも重症化予防には肯定的だ。

「現在発表されているデータによれば、重症化予防効果は50%以上あるといえます。実際、現場で重症化する患者のほとんどはワクチン未接種者。3回目までの接種は医師として推奨できます」

他方で小島さんは、年齢によって異なる指摘する。「初期のオミクロン株にあっては「B.A.1」が流行した際の厚労省のデータによると、70代以上の重症化予防効果は未接種者に比べて4~5倍あり、高齢者には有効といえます。ただしオミクロン株は感染力が強いものの、そもそも重症化率は低い。特に若い人が重症になるのはごくまれであり、若者の重症化を食い止めるためにどれほど効果があるかを判定することは非常に難しい」

さらに小島さんが懸念するのは追加接種の「罫」だ。

「ファイザーやモデルナが提供する「mRNAワクチン」には、もともと体に備わっている免疫力を低下させる可能性があり、実際に外国の論文では、接種後に時間が経過すると免疫力が下がるとの報告がある。特に自己免疫疾患の発生や免疫の低下によって体内

患者は少なくありません。ワクチンの副反応で体調を崩したと思っ受診したら、実はコロナに感染していたということもある。

接種後、抗体ができるまでの期間にかかったケースもありますが、ワクチンの有効性が大幅に低下していることは間違いありません」

「なぜ「切り札」は効かなくなったのか」

大規模接種が開始された21年5月、菅義偉前首相は全国の自治体に「ワクチンは切り札」とハッパをかけた。

そのかいあって今年8月28日時点で2回目接種を終えたのは人口の81.3%。3回目完了も64.1%に達する。65才以上の高齢者に至っては9割が3回目を打ち終え、4回目の接種が進む。

猛スピードで推進された「切り札」はなぜ効かなくなったのか。

「最大の要因はウイルスの変異です。特に第7波は、これまで感染の主流だったオミクロン株の派生型「B.A.2」よりも感染力が1.27倍強いとされる「B.A.5」の登場で一気に感染が広がりました。過去の感染やワクチン接種によって獲得した中和抗体の攻撃を、ウイルスが実質的にかわすことを「免疫逃避」といいますが、B.A.5は免疫逃避が発達しているため、感

「ファイザーやモデルナが提供する「mRNAワクチン」には、もともと体に備わっている免疫力を低下させる可能性があり、実際に外国の論文では、接種後に時間が経過すると免疫力が下がるとの報告がある。特に自己免疫疾患の発生や免疫の低下によって体内

「10月から適用が予定されている新しいワクチンは、従来型のコロナウイルスに対する成分と、オミクロン株に対する成分を半分ずつ組み合わせる「2価ワクチン」と呼ばれるもの。たしかにこれまでのワ

「政府は7回目までのワクチンを購入済み」(10月からは「オミクロン株対応型」の接種を開始)——テレビや新聞では連日ワクチン接種の推進に関するニュースが報道されている。

終わりの見えないコロナ禍で、この先もさらなる追加接種や新しいワクチンの導入が予定されているが、副反応に耐えながら打つてもすぐに感染する状況下において、接種し続ける必要はどれほどあるのか。

「10月から適用が予定されている新しいワクチンは、従来型のコロナウイルスに対する成分と、オミクロン株に対する成分を半分ずつ組み合わせる「2価ワクチン」と呼ばれるもの。たしかにこれまでのワ

「現状の治験データでは接種効果が劇的に改善するとは思えません。実際に接種が始まってみなければ本当のところはわからない。アメリカはワクチンが完成したらすぐ承認の方針なので、その結果がよければ2価ワクチンを選択肢に入れてもいいかもしれない。そもそもワクチンは追加接種することによって一時的に効果は上がりますが、その上昇幅は徐々に低くなります。今後は接種後に高い確率で発生する平均2日の発熱などの副反応と、感染後に平均4日寝込むと、感染リスクを天秤にかけるとなる。重症化に大きな不安を持つ人は打てばいいし、若年で感染する可能性が低い人は2回目以降はどちらでもいいと思います。ちなみに私は4回目接種にはそこまでメリットがあるとは思っていません」

4回目接種に異を唱える医療従事者は少なくない。都内の内科医が打ち明ける。「医療従事者なので4回目を推奨されましたが、打つてい

「現状の治験データでは接種効果が劇的に改善するとは思えません。実際に接種が始まってみなければ本当のところはわからない。アメリカはワクチンが完成したらすぐ承認の方針なので、その結果がよければ2価ワクチンを選択肢に入れてもいいかもしれない。そもそもワクチンは追加接種することによって一時的に効果は上がりますが、その上昇幅は徐々に低くなります。今後は接種後に高い確率で発生する平均2日の発熱などの副反応と、感染後に平均4日寝込むと、感染リスクを天秤にかけるとなる。重症化に大きな不安を持つ人は打てばいいし、若年で感染する可能性が低い人は2回目以降はどちらでもいいと思います。ちなみに私は4回目接種にはそこまでメリットがあるとは思っていません」

4回目接種に異を唱える医療従事者は少なくない。都内の内科医が打ち明ける。「医療従事者なので4回目を推奨されましたが、打つてい

「先行研究のあるイスラエル、アメリカ、カタールのデータを見ても3回目接種の感染予防効果は16~26%ほど。65%はかなり高く見積もっている」(小島さん)

4回目以降は、さらに感染予防効果が低下すると小島さんは続ける。

「イスラエルの論文によれば岸田首相が接種した「モデルナ」ワクチンの4回目接種後の感染予防効果はたったの11%。オミクロン株に対する抗体価は、感染が広まった初期の株のおよそ10分の1程度です。しかも4回目接種から2週間以内では、接種者と未接種者に感染率の違いがなかった。岸田首相が接種後9日目に感染したのは意外なことではありません」(小島さん)

当初「ワクチンには95%の感染予防効果がある」と強調

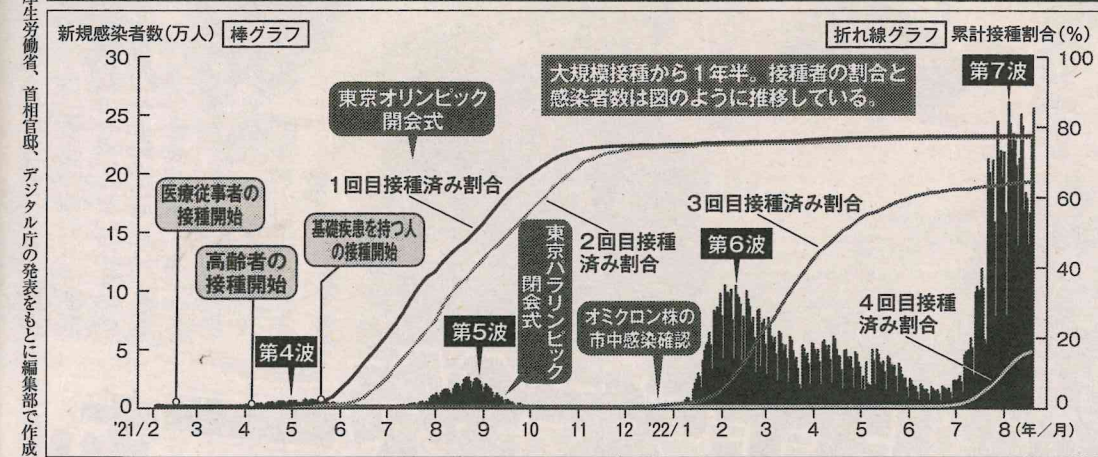
「先行研究のあるイスラエル、アメリカ、カタールのデータを見ても3回目接種の感染予防効果は16~26%ほど。65%はかなり高く見積もっている」(小島さん)

4回目以降は、さらに感染予防効果が低下すると小島さんは続ける。

「イスラエルの論文によれば岸田首相が接種した「モデルナ」ワクチンの4回目接種後の感染予防効果はたったの11%。オミクロン株に対する抗体価は、感染が広まった初期の株のおよそ10分の1程度です。しかも4回目接種から2週間以内では、接種者と未接種者に感染率の違いがなかった。岸田首相が接種後9日目に感染したのは意外なことではありません」(小島さん)

当初「ワクチンには95%の感染予防効果がある」と強調

新型コロナ「感染者数」と「ワクチン接種率」の推移



「正直に言って、ワクチンは感染予防には効果がないというのが現場の実感です」

都内の大学病院に勤務する産婦人科医がため息をつく。「うちの病院の看護師はほとんどが4回目を打ち終わりましたが、その後に2~3割が感染しました。ワクチンを打ったからコロナにかからない」と考える医療スタッフはもうゼロに近いです」

都内の開業医も声を揃える。

「4回目接種をした患者のうち、半分近くが感染している状況です。なかには接種後の副反応がひどくて苦しんだのに、さらにコロナにかかって「ワクチンに何の意味があったんですか」と涙目で訴える人もいます」

ナビタスククリニック理事長で医師の久住英一さんは、ワクチンの感染予防効果は大幅に低下していると話す。

「当院でも、岸田首相のように4回目を受けた直後にかかる

ワクチンの接種率が上がっても感染者は増える一方。

の萩本欽一(81才)は、8月11日に陽性が確認され、タレントの山田邦子(62才)もワクチンを打ったその日の夜に感染していたことが明らかになった。

1年半にわたって推進されたワクチンだが、果たしてその意味はあったのか。

「副反応かと思ったら感染だった」

「正直に言って、ワクチンは感染予防には効果がないというのが現場の実感です」

都内の大学病院に勤務する産婦人科医がため息をつく。「うちの病院の看護師はほとんどが4回目を打ち終わりましたが、その後に2~3割が感染しました。ワクチン

「最大の要因はウイルスの変異です。特に第7波は、これまで感染の主流だったオミクロン株の派生型「B.A.2」よりも感染力が1.27倍強いとされる「B.A.5」の登場で一気に感染が広がりました。過去の感染やワクチン接種によって獲得した中和抗体の攻撃を、ウイルスが実質的にかわすことを「免疫逃避」といいますが、B.A.5は免疫逃避が発達しているため、感

血液内科医の中村幸嗣さんもウイルスの変異でワクチンの防御力が大きく下がったと指摘する。

「デルタ株までのワクチンの感染予防効果は9割とされました。接種さえすれば行動制限しなくても感染を防げた。しかしオミクロン株以降はワクチンの感染予防効果が大幅に低下し、3回、4回と打っても大量の感染者が出ました。国立感染症研究所は3か所の病院のデータをもとにB.A.5に対し、3回目接種から2週間以上3か月未満でも65%の発症予防効果があるとしています。たしかに研究所が調査した3つの病院ではいい結果が出ていますが、現場の肌感覚としては、発症予防効果はもともと低いです」

独自に現在の予防効果を試算した小島さんは、20~30%ほどだと指摘する。

「感染研の調査は発熱外来を訪れた1500人ほどの少数のデータを解析したものです。私が厚労省アドバイザリーボードに提出された感染者の実数のデータをもとに計算してみたところ、B.A.5に対する

血液内科医の中村幸嗣さんもウイルスの変異でワクチンの防御力が大きく下がったと指摘する。

「デルタ株までのワクチンの感染予防効果は9割とされました。接種さえすれば行動制限しなくても感染を防げた。しかしオミクロン株以降はワクチンの感染予防効果が大幅に低下し、3回、4回と打っても大量の感染者が出ました。国立感染症研究所は3か所の病院のデータをもとにB.A.5に対し、3回目接種から2週間以上3か月未満でも65%の発症予防効果があるとしています。たしかに研究所が調査した3つの病院ではいい結果が出ていますが、現場の肌感覚としては、発症予防効果はもともと低いです」

独自に現在の予防効果を試算した小島さんは、20~30%ほどだと指摘する。

「感染研の調査は発熱外来を訪れた1500人ほどの少数のデータを解析したものです。私が厚労省アドバイザリーボードに提出された感染者の実数のデータをもとに計算してみたところ、B.A.5に対する

「先行研究のあるイスラエル、アメリカ、カタールのデータを見ても3回目接種の感染予防効果は16~26%ほど。65%はかなり高く見積もっている」(小島さん)

4回目以降は、さらに感染予防効果が低下すると小島さんは続ける。

「イスラエルの論文によれば岸田首相が接種した「モデルナ」ワクチンの4回目接種後の感染予防効果はたったの11%。オミクロン株に対する抗体価は、感染が広まった初期の株のおよそ10分の1程度です。しかも4回目接種から2週間以内では、接種者と未接種者に感染率の違いがなかった。岸田首相が接種後9日目に感染したのは意外なことではありません」(小島さん)

当初「ワクチンには95%の感染予防効果がある」と強調

「先行研究のあるイスラエル、アメリカ、カタールのデータを見ても3回目接種の感染予防効果は16~26%ほど。65%はかなり高く見積もっている」(小島さん)

4回目以降は、さらに感染予防効果が低下すると小島さんは続ける。

「イスラエルの論文によれば岸田首相が接種した「モデルナ」ワクチンの4回目接種後の感染予防効果はたったの11%。オミクロン株に対する抗体価は、感染が広まった初期の株のおよそ10分の1程度です。しかも4回目接種から2週間以内では、接種者と未接種者に感染率の違いがなかった。岸田首相が接種後9日目に感染したのは意外なことではありません」(小島さん)

当初「ワクチンには95%の感染予防効果がある」と強調

「先行研究のあるイスラエル、アメリカ、カタールのデータを見ても3回目接種の感染予防効果は16~26%ほど。65%はかなり高く見積もっている」(小島さん)

4回目以降は、さらに感染予防効果が低下すると小島さんは続ける。

「イスラエルの論文によれば岸田首相が接種した「モデルナ」ワクチンの4回目接種後の感染予防効果はたったの11%。オミクロン株に対する抗体価は、感染が広まった初期の株のおよそ10分の1程度です。しかも4回目接種から2週間以内では、接種者と未接種者に感染率の違いがなかった。岸田首相が接種後9日目に感染したのは意外なことではありません」(小島さん)

当初「ワクチンには95%の感染予防効果がある」と強調



眞子^{さん}出産まで箱口令!義母の偽名生活

美智子^{さま}隠された^{コロナワクチン}4回目接種と脚に血栓 不安

真相直撃 三浦春馬^{さん}秘めた恋まで暴露 トラブル

独占 三田寛子^{さん}別居収入大幅減の夫に愛想も尽きて

雅子^{さま}は静養自粛も紀子^{さま}2泊3日旅家行族



9月15日号

特別価格 450円

防災を考える特別号 活用術
あなたと家族を守るキャンプ用品

自由すぎる「ネオ餃子」レシピ

岸田首相も欽ちゃんも接種後に感染 ワクチンはなぜ効かない

50才で料理は卒業しなさい! 調理定年実践完全マニュアル

古武術介護 疲れしない

100才の風景

吉行和子^{さん}「人に期待しない生き方は楽よ」
石井ふく子^{さん}「親ならば“迷い”を捨てなさい」
三浦雄一郎^{さん}「やらない理由を探すのはやめる」
海老名香葉子^{さん}「情”を貯蓄していきましょうよ」



心臓の名医が明かす

長生き心臓の鍛え方

心筋梗塞 心不全で死なない

新型コロナで急増中

萩野目洋子^{さん}「中愛」語る

夏の水太りとお盆太り 1週間リセットダイエット

トム・クルーズ^{さん}「私だけが知っている」

原日出子^{さん} 渡辺裕之^{さん}夫婦で見守った「最後の熱演」
B'zと叶えた「10年前の約束」 矢沢永吉^{さん}「朝までやろうぜ」
杏^{さん} 仏移住に東出昌大^{さん}が突きつけた「秘」条件